



1. (公社) 茨城県農林振興公社穀物改良事業推進会議・ 研修会開催される



◀事業推進会議・研修会会場



▲安藤准教授による講演

茨城県農林振興公社の「穀物改良事業推進会議・研修会」が6月2日(火)茨城町の全農茨城県本部農機総合センターにおいて、農業協同組合及び市町村穀物改良協会、県関係機関・団体等の関係者92名が出席し開催されました。

会議では、中村理事長及び来賓の県農林水産部産地振興課 平林技佐の挨拶の後、穀物改良部より平成27年度の穀物改良部事業計画概要、第59回稲作共進会・第26回そば共進会、県産地振興課より平成27年度茨城県畑作振興対策について

説明が行われました。

研修会は、東京大学大学院の安藤光義准教授をお迎えし「低米価時代における水田農業政策のあり方と農業経営の展開方向」と題し講演会を開催しました。安藤准教授から①農業センサスから見た日本農業の構造改革の到達点②農地中間管理機構を巡る問題と可能性③水田大規模経営の到達点④生産調整の問題等具体的に実例を交えて講演をいただき、本県水田農業経営を考える上で大変参考になる研修会でした。

も く じ

1. (公社) 茨城県農林振興公社穀物改良事業推進会議・研修会開催される	1
2. 高品質種子生産に向けた7月～9月の水稻の栽培管理と適期の収穫・乾燥	2
3. 大豆の主な病害虫と防除について	4
4. 「第41回農機・生産資材大展示会 ダイナミックフェア2015」開催のお知らせ	6
5. がんばる種子生産者！(JA北つくば結城市種子部会)	7
6. 平成28年播種用水稲「ふくまる」種子購入希望の生産者の皆様へ	8
7. 穀物改良部ニュース	8
(1) 平成27年産麦類種子の圃場審査が実施される	8
(2) 茨城県採種部会協議会総会が開催される	8

2. 高品質種子生産に向けた7月～9月の水稻の栽培管理と適期の収穫・乾燥

茨城県農業総合センター 専門技術指導員室 眞部 徹

1. 水稻の生育状況

本年は、5月上旬以降、気温は平年よりも高く、日照も平年より多く推移しています。このため、生育は平年よりも進み、草丈が長くなっています。その為、「コシヒカリ」では適切な水管理や施肥による倒伏防止対策が重要になります。

このところ毎年続いている、夏の高温についても、基本技術の徹底が収量の安定化や品質維持につながりますので、水稻の生育状況に合わせた適切な管理を心掛けましょう。

2. 中干し後の水管理は間断かんがいが基本

中干しは、幼穂形成期（出穂前25日頃）までに終了し、その後は間断かんがいを行います。

出穂までは3～4日程度の湛水管理（入水後、自然落水）、その後は落水状態で1～2日程度保つというサイクルを繰り返します。出穂後は出穂前よりも綿密な水管理とし、図1のように湛水の継続日数を2～3日、落水後は田面が乾く前に入水します。

また、ほ場の透水性（縦浸透）が良いと根の活力が高まります。暗渠施工田では、暗渠の排水量を調節して透水性を高めておきましょう。

落水時期については、早過ぎると品質低下を起こしますので、早生品種で出穂後25日以降、中晩生品種で出穂後30日以降を目安とします。用

水が早めに停止してしまう圃場では、直前に十分入水しておくか、排水路から汲み上げて入水する等の対策を講じて下さい。

3. 適正な穂肥施用

(1) 穂肥の効果と施用量

穂肥は粒の充実・肥大に必要なものです。適正な生育を確保した上での適期に適量の穂肥は、収量や千粒重を向上させます。穂肥の適量は、標準で窒素2kg/10a程度ですが、地力を勘案して増減します。

(2) 穂肥の実施時期

幼穂の形成は出穂の約30日前頃から始まります。この時期に窒素が十分に供給されると、一穂に着く粒数が多くなりますが、同時に下位節間が伸びて倒伏し易くなります。従って、粒数確保と下位節間長のバランスが取れた適期に穂肥を実施することが重要です。

穂肥の適期は品種によって異なり、倒伏しやすい「コシヒカリ」は出穂15日前頃、倒伏に強い「あきたこまち」では出穂18～20日前頃に行うのが基本です。

(3) 「コシヒカリ」の倒伏を防ぐ穂肥判断

出穂20日前頃に草丈と葉色から判断します。草丈が80cm以下で葉色4以下なら窒素2kg/10aを施用します。それ以上の生育であれば、施用時

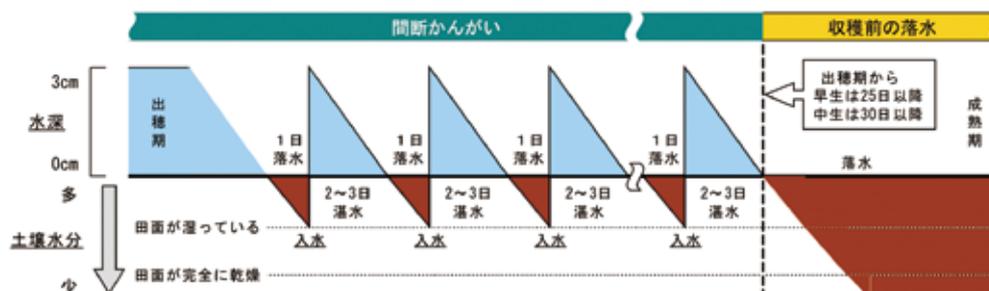


図1 出穂後の間断かんがい法

期を遅らせるか施用量を控え、場合によっては穂肥の施用をとりやめます。

3. 病害虫の防除

(1) 斑点米カメムシ類の防除

耕種の防除法としては、カメムシ類の発生源となる畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水稻出穂後の除草は畦畔に生息するカメムシ類を圃場内に追い込むことになるので、除草作業は出穂 10 日前までに終わるようにしましょう。

穂揃期にクモヘリカメムシの成虫を多数確認した場合には、青立ちとなる恐れがありますので、



図 2 クモヘリカメムシの成虫(体長 16mm前後)

直ちに薬剤散布を行います。また、乳熟期(出穂期後 10～15 日頃)に幼虫を確認した場合にも薬剤防除が必要です。特に周辺圃場と出穂時期が異なっていると、カメムシ類の被害が集中しやすいので注意して下さい。

(2) 稲こうじ病の防除

近年、稲こうじ病の発生が増えています。前年発生が見られた圃場では、防除を行きましょう。茎葉に対する薬剤の散布適期は出穂 20～10 日前ですが、この時期は梅雨時期にあたるため、実際に散布できる日は限られます。天気予報に注意して、適期防除ができるように準備しておきましょう。

4. 収穫準備

(1) コンバインの清掃

高い位置から順に低い位置へと清掃を進めることで、一度清掃したところに穀粒が再び入り込む可能性が減り、効率よく清掃できます。らせん同士の接続部や脱穀こき胴周辺などの構造が複雑な部分は、穀粒が残りやすいので、注意して清掃しましょう。

(2) 乾燥機の清掃

乾燥機内の粉の流れ(循環時)は、ロータリバ

ルブ→下部コンベアらせん→昇降機→上部コンベアらせん→均分器→貯留部→乾燥部→ロータリバルブと循環しています。このように粉の搬送経路が切り替わる部分に穀粒が残りやすいので、注意して清掃します。特にロータリバルブやコンベアらせんの四隅は、穀粒が残りやすいので注意してください。

5. 収穫は適期の見極めが重要

採種における収穫適期は、帯緑粉率(少しでも青味の残っている粉の割合:図 3)が 5%以下になってからで、一般食用米の収穫適期(成熟期:帯緑粉率 10%)よりも 2～4 日あとになります。早刈りでも刈り遅れでも品質が低下しますので注意しましょう。特に「コシヒカリ」は早刈りすると、

枝梗が取れにくく残りやすいため適期の収穫を心掛けましょう(枝梗付きの種粉はクレームになります)。

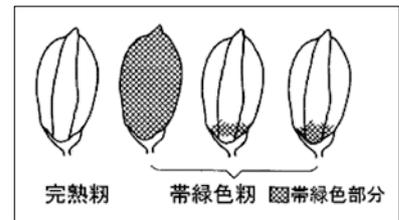


図 3 帯緑粉の見分け方

6. 収穫は粉水分が 25%以下になってから

高水分での収穫は発芽率を下げるので粉水分が 25%以下まで乾いてから行いましょう。収穫作業開始時間は、稲から露がとれる午前 10 時以降とします。早朝や降雨後の湿った状態での収穫は、枝梗付きの粉が多くなるので避けます。

7. 正しい乾燥法で発芽率の低下を防ぐ

乾燥機への張り込み量は機種にあった適正な量とします(最低張り込み量以上)。熱風方式の循環式乾燥機では、送風温度 40℃以下、乾減率は毎時 0.7%以内とします。遠赤外線仕様循環式乾燥機では、毎時乾減率は、0.5%の種子モードでかならず行います。

粉の水分は 14.5%以下に仕上げます(乾燥後、多少水分が戻るのを考慮します。)

3. 大豆の主な病害虫と防除について

茨城県農業総合センター農業研究所 諏訪 順子

大豆には多くの種類の病害虫が発生し、収量や品質の低下を引き起こします。収量を確保し高品質な大豆を生産するためには、特に開花期から収穫期に発生して莢や子実を加害する害虫（カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ等）や紫斑病の防除を的確に行うことが重要です。

1. 紫斑病

紫斑病にかかった種子（紫斑粒）は、へそを中心に紫色の斑紋を生じます。罹病種子や前年の被害残渣が伝染源となり、莖葉や莢が感染した後に子実が感染して紫斑粒が発生します。本病の防除には、開花後15～40日間に1～2回の薬剤散布が有効です。ただし、県内ではトップジンM剤に対する耐性菌が発生していますので、防除の際は別系統の薬剤を使用して下さい。耕種的な防除法として、健全種子の使用や過繁茂とならない適正な栽培管理が大切です。また、本病は成熟期の降雨や多湿により発病が助長されるため、適期収穫と速やかな乾燥を行うことも重要です。

2. カメムシ類

大豆に発生する主要なカメムシ類はホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ等です。成虫は開花期頃から大豆に飛来し、子実を吸汁加害します。成虫は大豆の葉や莢に産卵し、幼虫も子実を加害しながら成長します。子実の肥大途中に加害されると肥大が停止し、莢が落ちたり不稔となり青立ちの原因になります。また、子実肥大期以降に加害されると吸汁された部分が窪んだり褐変して変形粒や着色粒

となります。カメムシ類の発生は開花期から収穫期まで長期にわたるため、防除は莢伸長期以降、発生に応じて2～4回の薬剤散布を行うと効果的です。

3. シロイチモジマダラメイガ、マメシンクイガ

両種とも幼虫が莢内部に入って、子実を食害します。県内ではシロイチモジマダラメイガによる被害が主体で、低温年にマメシンクイガの発生が多くなります。防除は若齢幼虫の発生時期となる莢伸長後期～子実肥大初期に薬剤を散布して下さい。

4. ダイズサヤタマバエ

ダイズサヤタマバエの成虫は、若い莢内に一粒ずつ産卵し、幼虫は莢内に寄生します。被害を受けた部分は、莢や子実の生育が止まり、虫こぶができるので奇形莢となります。夏季が高温の年は発生が多くなります。また、播種時期が遅くなると開花期が成虫の発生時期と重なるため被害莢が多くなります。防除は、開花後10日後頃に薬剤を散布して下さい。

5. 食葉性チョウ目幼虫

大豆の葉を加害する主なチョウ目幼虫は、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ツメクサガ、ミツモンキンウワバ等です。オオタバコガ、ツメクサガ等は莢も加害します。これらのチョウ目幼虫は、気象条件の影響を受け、発生年の年次変動が大きいため、圃場を定期的に見回り、若齢幼虫を早期に発見して防除を行うことが大切です。



写真 1 紫斑粒



写真 2 カメムシによる被害粒



写真 3 ホソヘリカメムシ成虫



写真 4 イチモンジカメムシ成虫



写真 5 アオクサカメムシ成虫



写真 6 クサギカメムシ成虫



写真 7 シロイチモジマダラメイガ幼虫



写真 8 ダイズサヤタマバエによる被害莢

4. 「第41回農機・生産資材大展示会ダイナミックフェア2015」開催のお知らせ

JA全農いばらき 農機総合センターでは、7月18日(土)・19日(日)・20日(月)の3日間、「第41回農機・生産資材大展示会 ダイナミックフェア2015」を開催いたします。

ダイナミックフェア2015は40社を超える農機メーカー・営農資材メーカー・販売会社が一同に会する大展示会です。各社おすすめの機械や新型機械、資材を展示提案します。大型機械だけでなく、農作業に欠かせない鎌などの小物や、営農車、倉庫の展示の他、肥料や農薬・除草剤に関する最新情報、農作業の省力化に関する情報提供ブースもあります。

さらに、健康相談コーナーや資金相談コーナー・共済相談コーナーを設け、ご来場のみなさまにより良い「営農」と「生活」に関する情報を発信します。

また、このイベントでは中古農機展示即売会も同時開催いたします。中古農機展示即売会は非常に高い人気を誇り、毎年多くのご来場者で賑わいます。中古農機の購入者は抽選で決定しますので、中古農機の導入を検討されている方は抽選会(7月19日(日)11時開始)に間に合うようにご来場ください。

この他にも、開催3日間の午前中に「ミニ講習会」(無料)を開催します。各メーカー講師が、「ぜひ知って欲しい!」情報を15分に凝縮しコンパクトにお伝えします。たとえば、これから使用シーズンを迎える乾燥機の準備のコツ、作業機の調

全国農業協同組合連合会 茨城県本部生産資材部

整方法や低コスト農法の紹介など様々なお役立ち情報をお届けします。受講料は無料、各講習定員30名です。ミニ講習会のスケジュールはチラシまたはJA全農いばらきのホームページでご確認ください。

HP アドレス

http://www.ib.zennoh.or.jp/contents/make/nouki_event.html

今年の秋にはオフロード法(特定特殊自動車排出ガス規制)の適用範囲が拡大され、9月製造分より26～50馬力の農業機械は新型エンジンの搭載が義務付けられます。新型エンジン搭載により該当農機は値上げになると予想されますので、お早目にご検討下さい。



昨年開催のダイナミックフェア2014の様子

中古農機の購入者抽選会の様子



開催場所：JA全農いばらき 農機総合センター特設会場
東茨城郡茨城町大字小幡字栗林 443 - 3

開催日時：平成27年7月18日(土)・19日(日)・20日(月)
9時～16時(20日は9時～15時)

同時開催：中古農機展示即売会(抽選日は7月19日(11時))

問合せ先：最寄のJA または

JA全農いばらき ダイナミックフェア2015事務局 ☎029-291-0125

5. がんばる種子生産者！



結城市種子生産部会
中山 寿史さん

◆種子生産の規模

・麦 ミカモゴールドン 12ha
(種子以外で 10ha)

・水稲 主食コシヒカリ 4ha
飼料米 あさひの夢 10ha

(国の政策でもある新規需要米の飼料米にも取り組みを行っている。)

保有農機

・トラクター 5台
・コンバイン 1台
・汎用コンバイン 1台
・乾燥機 6台
・田植機 1台

◆品質向上の取組

就農1年目であり、種子生産部会やJA等指導の下、種子生産に取り組んでいます。

種子生産の主力である二条大麦のミカモゴールドンに関しては、赤カビ等の病気を防ぐために個人の防除と無人ヘリで防除を2回行っており、ヒメトビウカ等の防除も行っています。

今後、部会の栽培講習会、現地研修会等に参加し、栽培技術の基本を学んで品質向上に取り組んでいきます。

◆栽培管理

麦・水稲ともに雑草の徹底防除を基本に、代掻きの均一化、除草剤の体系処理、適切な水稲管理等々により雑草の発生を最小限に抑えています。

又、収穫については、登熟状況を確認、JA等と相談しながら、適期刈り取りに努めています。

◆今後の抱負

農作物を取り巻く環境が厳しい中で農業についての情報収集や部会員との連携を図りながら、栽培技術の基本を忘れずに実需者のニーズにあった優良種子の生産に励んでいきたいと思えます。



納 屋



汎用コンバインによる麦の収穫①



汎用コンバインによる麦の収穫②

6. 平成28年播種用水稲「ふくまる」種子購入希望の生産者の皆様へ

ふくまる推進協議会

ふくまる種子を購入する際には、「生産者登録制度」に加入する必要があります！

茨城県オリジナル水稲品種「ふくまる」については、高品質な米の生産・流通を推進するため、「生産者登録制度」を導入いたします。

本制度は、品質の安定化等に必要な一定の要件に同意していただいた生産者に限定して作付を推進するものです。これにより、技術指導の徹底、トレーサビリティ体制の強化、流通する「ふくまる」の品質安定化等を図り、実需者からの評価を一層高めてまいります。

ふくまる種子を希望される方は、必ず本制度に加入するようお願いいたします。

【登録申請の方法】

ふくまる生産に関する誓約書に必要事項を記入し、種子注文時に各JA、集荷業者に提出して下さい。※

※「生産者登録制度」に関する詳細な情報は、以下にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先：ふくまる推進協議会（事務局：茨城県農林水産部産地振興課 TEL 029-301-3921）
茨城県産米銘柄化協議会（事務局：全農茨城県本部米穀課 TEL 029-219-2222）

【登録申請までの流れ】



7. 穀物改良ニュース

(1) 平成27年産麦類種子の圃場審査が実施される

大麦と小麦の圃場審査が4月下旬より茨城県の各種子場であるJA常陸・JA水戸・JAやさと・JA茨城かすみ・JAつくば市・JA北つくばにて実施されました。圃場審査は、県知事指定圃場に播種された原種が適正に管理され、順調に生育していることを審査するもので、審査に立ち会った種子生産者や農協の職員は、審査員のアドバイスを神妙な面持ちで耳を傾けていました。



均一に育った麦種子

(2) 茨城県採種部会協議会総会が開催される

茨城県採種部会協議会総会（会長谷田部貞雄）が6月5日（金）、農林振興公社会議室で、JA採種部長及びJA担当者、県関係者等の出席のもと開催されました。

当協議会は、農協単位に組織された採種部会の連携を強化し、優良種子生産のため情報交換や生産技術の調査研究を行う目的で組織しています。

総会では本年度の活動計画として、種子生産現場での情報交換・現地圃場確認・先進地域への視察等の検討、また、種子に対するクレーム状況、優良種子生産対策等について意見交換されました。



茨城県採種部会協議会